7/6
朝日

終戦8日前 空襲犠牲の無念

無職　（兵庫県　80）

1945年8月7日午前10時過ぎ、愛知県豊川市にあった兵器工場「豊川海軍工廠」上空にB29約130機が襲来し3500発の爆弾を投下、約2600人が死亡した。当時25歳だった夫の叔父は電気技師として徴用されており、この空襲で犠牲となった一人だ。

クラシック音楽好きで、亡くなった年にも滋賀県の実家から義母がいる大阪を訪ね、10歳だった夫にレコードを聴かせてくれたという。写真で見るその方は、夫によく似ている。

25年前の夏、義母の願いで豊川空襲の慰霊祭に、私たち夫婦と夫の弟が付き添って出席した。義母は供養塔に刻まれた自分の弟の名前を何度も何度もなでながら「もう1週間元気でいられたら平和な戦後を生きられたのに」と涙を流した。

私は、戦争中の恐怖やひもじかった日々を思うと、安全保障関連法案の成立を急ぐ安倍政権に不安を覚える。この先、世界や時代が変わっても、人の命と引き換えの平和など誰も望まない。孫の時代に徴兵制の時代が来ることのないよう、成立阻止に声を出したい。